温泉下林地区の『復興まちづくりへの想い』について ～第１回懇談会の意見概要～

※　第１回地区別懇談会における参加者の意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

項　目		復興まちづくりへの思いや困り事等について
避難対策	避難場所 道路	・旅館に避難した。 ・避難所のスポーツパレスは２階に上がらなければならないので、車椅子などでは難しい。 ・スポーツパレスは浸水したため、今後は第二中学校に避難する。 ・村山公園は遠くないが、みんながそこに向かったので車が渋滞してしまった。 ・万江川の橋を渡って避難するのは難しい。
	避難誘導 要支援者対策	・命を守る避難を。命があれば何とかなる。 ・市からの災害情報が出るのが遅かった。 ・地域にも避難誘導の協力を求めて避難した。 ・「逃げましょう」という地域での声がけが人命を救ったと思う。 ・泥で歩けないという課題もあった。
生業再建・住まい再建	住まい再建 生業再建 復興まちづくり	・３月に配布された浸水想定区域図（想定最大規模）では、ほとんど住む場所がない。 ・行政の様々な手続きの締切りや、免除期間の打切りが早い。 ・今次水害を体験していたら、怖くて現地に住もうと思わないかもしれない。 ・自宅の再建をどうするかすごく迷っている。 ・温泉の復活を。『自然』と『温泉』を活かした観光まちづくり。温泉を活かした復興が必要だ。 ・高齢になり農地を整備できなくなっており、このままでは荒れ地化する。 ・稲作が終わると何もしていないので、観光面からも菜の花やレンゲを植えると良い。荒れ地を残すのではなく、手を入れる必要がある。 ・耕作を続けない土地が少しでもあると、野生動物が棲みつき、更に荒れてしまう。 ・魅力ある温泉町にしたい。住宅だけでなく、老人福祉センター再建も同時に進めてほしい。 ・どんな事業があり、どんな内容なのか、費用負担がどのくらいなのか、事例を知りたい。 ・水害保険をかけて再建していくことが重要だ。
	地域コミュニティ 地区への思い	・温泉町のシンボルの老人福祉センターが集会所になっている。早く集会所を復旧したい。建物は被災したが、源泉は生きている。 ・仮設住宅に入居している一人暮らしの高齢者の不安を取り除かなければならない。 ・子供たちが 20 歳になっても残れるようなまちづくりをしなければならない。 ・地域のつながり、コミュニティが好きで、地域での再建を考えたいが、計画が見えないと再建しづらい。 ・コミュニティが崩壊してしまうのを懸念している。 ・地域にいない人たちにどのように情報を流すかが重要な課題である。 ・地域には昔からの祭りがあり、町内ごとに様々な祭りをやってきた。仮設にいる人も祭りに参加してもらえれば、元気になる。
治水・その他	治水	・ダムに関する不安がある。 ・線状降水帯の発生時には、市房ダムを空にしておいてほしい。 ・市房ダムの定期的な排砂で、球磨川に土砂が堆積している。自然のままの川が良い。 ・福川の堤防は球磨川の堤防よりも低い。 ・福川の樋門は最後まで閉められない。樋門管理の再考を。 ・排水ポンプの能力アップを。 ・戦後のスギやヒノキの植林で、山の保水力が低下している。

◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線：8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

地区別懇談会だより

Vol.1

温泉下林地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第１回・第２回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、**地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」**として位置づけ、それぞれの地区ごとに**「地区別懇談会」**で話し合いを進めています。

温泉下林地区の対象地区は、下林町、中林町、温泉町です。

◆第1回地区別懇談会

1　復興計画、復興まちづくり計画についての説明
- ・復興計画等の概要説明
- ・重点地区の考え方と地区別懇談会の進め方
- ・これまでの校区別座談会の概要

2　地区ごとの話し合いと全体共有
- ・顔合わせ、自己紹介（想いや困り事など）
- ・次回日程や宿題、連絡体制や参加者の声がけ

4 月 18 日（日）18 時から、中原ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ

◆第2回地区別懇談会

1　地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
- ・前回懇談会の振り返りと情報提供
- ・治水対策とまちづくり・避難の考え方
- ・復興まちづくりに係る各種支援制度や事例の紹介

2　地区ごとの話し合いと全体共有
- ・出水期に向けた避難等のあり方
- ・復興まちづくりへの具体的な課題と方向性
- ・今後の進め方、次回日程調整、連絡体制の確認

5 月 13 日（木）10 時から、中原ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ

懇談会の進め方について　～復興まちづくり計画の策定に向けて～

地区別懇談会での検討をもとに、具体的な復興まちづくりの取組を「復興まちづくり計画」に反映していきます。

◆地区別懇談会の参加方法
- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
  ※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただきます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。
  多くの方のご参加をお待ちしております。

参加募集中

◆地区別懇談会の進め方
- ・4～10 月までの間に、概ね月 1 回（合計 8 回程度）の開催を予定しています。

次回の開催予定：**第３回 ６月 16 日（水）18 時より**

次回のテーマ予定：復興まちづくりの課題と方向性について

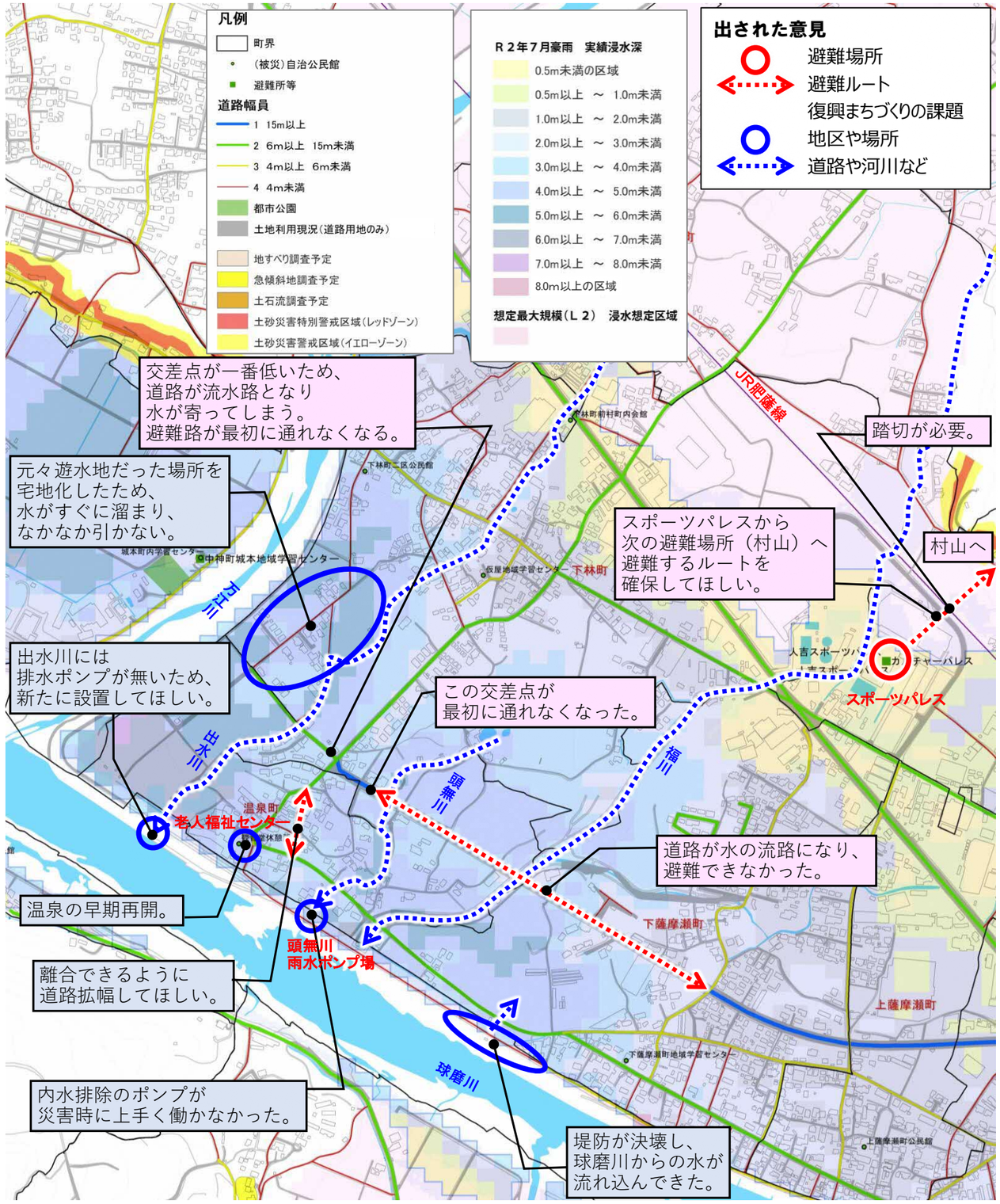
下林町・中林町会場:中原ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ

温泉町会場:町内会長宅

◇復興まちづくり計画とは
- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- ・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・住民主役の計画づくり（策定主体は主に住民）に対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和４～9 年度の概ね 6 年間。（令和 3 年度からの一部実施も想定）

温泉下林地区の具体的な『出水期に向けた避難等のあり方』や『復興まちづくりへの課題や方向性』について

～第２回懇談会の意見概要～

※　第２回地区別懇談会における参加者の意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

項　目		出水期に向けた避難等のあり方 復興まちづくりへの具体的な課題や方向性について
避難等のあり方	避難場所	・スポーツパレスに避難しても、そこが危険になった後の次の避難所への道がない。 ➔スポーツパレスが浸水した際、次の避難所は村山になる。スポーツパレスから村山まで離合できる避難路、スポーツパレスからすぐに線路を渡れる踏切が必要。 ・スポーツパレスに避難した際、駐車場に停めていた車が浸水した。避難所でも適切な情報を発信してほしかった。 ・避難が難しいお年寄りのためにも、避難タワーのような垂直避難できる場所を整備した方が良い。 ・２万人が避難してきたら食料をどうするのか、対策が必要だ。 ・配布された浸水想定マップには浸水範囲だけが掲載されていて、どういう雨が降った時の浸水範囲なのかなどがわかりやすく記載されておらず不親切。避難場所なども記載されていないため、あれを見てもどうすることもできない。
	避難ルート	・避難ルートの交差点が低くなっていて水が溜まり、使えない箇所がある。 ・老人センター周辺の避難路に離合できない場所があるため、道路拡幅を検討してほしい。
	避難誘導 要支援者対策	・夜間に避難する時のための設備（投光機等）を町内会で持つことはできないか。 ・災害情報が出たら一次避難所にすぐに避難することを心がける。 ・高齢者には、助けを呼べるホイッスルを配布し、持ってもらえばどうか。 ・一斉に自動車で動き渋滞した。 ・お金をかけずにできることとして、地区ごとに時間をずらして、全員が避難するようにしてはどうか。 ・避難「指示」より避難「命令」のような強制力の強い言葉を使ったほうが良い。 ・お年寄りには徒歩 30 分の避難は難しい。 ・避難ができなかった人を助けるためのボートなどがあったほうが良い。 ➔昔は各家で和船を持っていた。渡し船があった頃は、災害時に渡し船で救出をした。
復興まちづくりへの課題や方向性	住まい再建 生業再建	・住まい再建の目処が立たない中で、避難所の話をする気持ちにならない。 ・リフォームで個別に住まいを再建したが、まちづくりとどのような関係性を持つのかわからない。
	復興まちづくり	・温泉町は水害の多い地域。嵩上げなど根本的な対策をしないと水害をなくすことはできない。 ・温泉があれば人が集まり、地域のコミュニティも維持できる。
	治水 土砂対策	・この地区は水害多発地区であり、地形的に嵩上げをしないと水害対策にならない。 ・排水ポンプ場があるが、町民でその役割を知らない人が多い。温泉町の水の状況が一番わかる場所なので、ここから情報発信できないか。 ・ポンプなど内水排除施設が十分ではなく、整備済みポンプも有効に働かなかった。 ・ポンプ場が浸からないように、再配置、改修が必要である。 ・農地に流れ込んだ土砂などの堆積物の撤去はいつになるかスケジュールを示してほしい。
	その他	・ボランティアには助けられたが、捨ててほしくないものを捨てられてしまった事例がたくさんあった。捨てて良いもの、捨ててほしくないものがわかるシールなどを作成して住民に配布することはできないか。